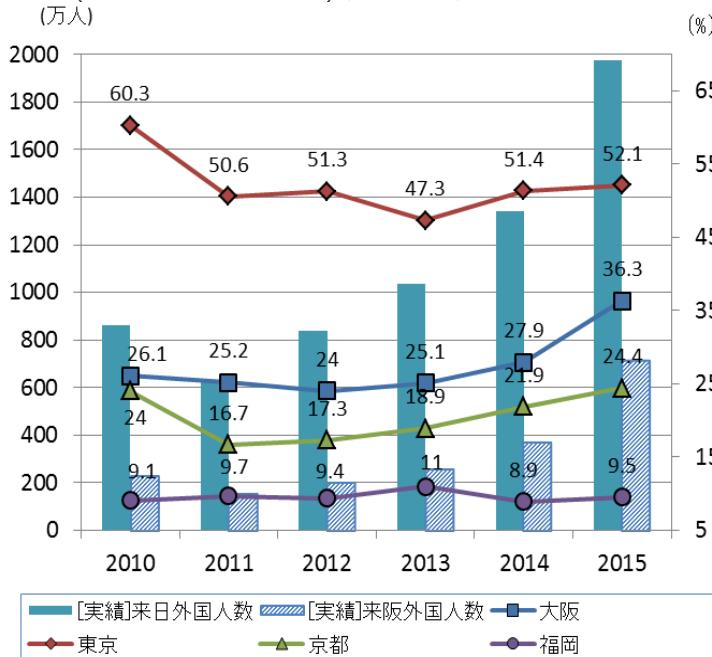


大阪の現況：外国人旅行者の急増

2015年 来阪外国人旅行者 716万人
(大阪への訪問率36.3%)

来日外国人数と主要都市訪問率

(出典：日本政府観光局 (JNTO)「訪日外客数」「訪日外国人消費動向調査」)



IR立地に向けた これまでの大阪府・市の取組み

大阪の成長戦略

「国際エンターテインメント都市・大阪」の創出のため、IR立地を促進

➡ 大阪・関西のさらなる成長、ひいては、日本全体の成長を牽引

大阪エンターテインメント都市構想推進検討会

(H22.7~)

学識、経済界、観光関連団体、PTA協議会、自治体代表等の委員により、「大阪におけるIRに関する基本的な考え方」をとりまとめ (H23.1)

大阪府市IR立地準備会議 (H25.12~)

・知事 (本部長)、大阪市長 (副本部長)
・候補地を「夢洲を軸とした大阪市内ベイエリア」とする
「基本コンセプト案」を確認 (H26.4)

大阪市が夢洲まちづくり構想検討会 (H26.10~)

・府は、関西の経済3団体とともに参画
・「夢洲まちづくり構想 (案) ~中間とりまとめ~」 (H27.2)

大阪の優位性

【立地】 関西圏2,000万人以上の中心地、人気観光スポットに近接

【アクセス】 24時間空港の関空3時間圏内には東アジア主要都市
国内鉄道網:府内・国内への移動至便

【観光資源】 伝統芸能、歴史的文化遺産、テーマパークなど

【情報創造・交流機能の集積】 大学、研究所、専門学校、ホテルなど

候補地「夢洲を軸とした大阪市内ベイエリア」



- ・大阪湾にある人工島 (大阪市此花区)
- ・梅田、難波から10km圏
- ・埋立中で住宅は未立地
- ・約260haまで活用可能な広大な土地
- ・東京湾岸と比較すると、土地の価格が安い
- ・事業者ニーズにも合致

大阪が目指すIR像 (ポイント)

MICE

- ・MICE機能充実には大規模かつ会議・展示の複合施設が不可欠
- ・しかし、行政の投資で施設を整備し、健全に運営することには、限界
- ・IR手法で民間資本を活用した世界標準のMICE施設を整備

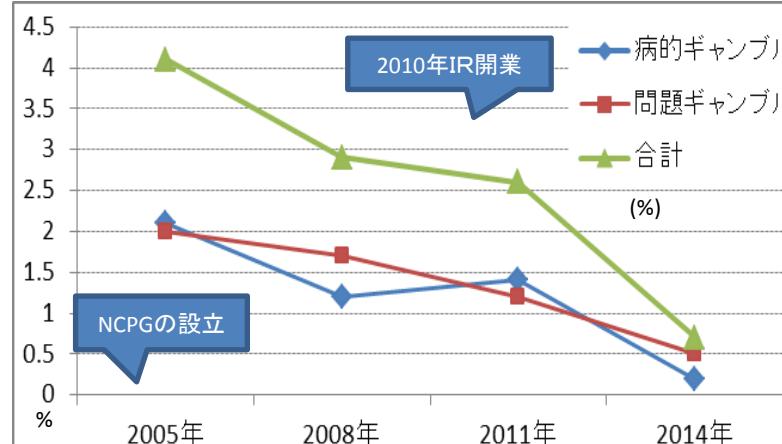
シンガポールと日本の主なMICE施設

施設名	開業	展示面積	会議収容 (最大)
マリーナベイサンズ(IR)	2010	30,000㎡	8,000人
サンテックシンガポール	1995	23,970㎡	12,000人
シンガポールEXPO	1999	100,000㎡	1,500人
東京ビッグサイト	1996	82,660㎡	1,000人
パシフィコ横浜	1991	20,000㎡	5,000人
幕張メッセ	1989	72,000㎡	1,664人
大阪府立国際会議場	2000	2,600㎡	2,754人
インテックス大阪	1985	72,978㎡	595人

依存症対策

- ・海外の先進事例のノウハウを参考に、ルールづくりや対策を実施
- ・様々な依存症対策のモデル都市へ

シンガポールにおけるギャンブル依存症 有病率の変化



依存症の対策例

ギャンブル依存症全般への

- ・治療やカウンセリング体制の構築
- ・顧客の排除プログラム (自己・家族・規制機構等)
- ・入場回数制限
- ・自国民及び永住者の入場料徴収 (外国人は無料)
- ・カジノの広告規制

カジノ管理法に基づき2005年に設立された「問題ギャンブル全国協議会」(NCPG) (シンガポールの諮問機関) が、ギャンブル依存症対策の開発・支援・実施等を行う。